東京都三鷹市大沢

太平洋戦争　首都防衛
高射砲陣地跡
こうしゃほうじんちあと



2015年6月撮影　正面三鷹市立羽沢小学校、
その奥が調布飛行場、右側の森の右奥が国立天文台。
（田畑幸嗣 早稲田大学文学学術院准教授撮影）



十

一九四五年二月十七日十二時三十分
（昭和二十年）

突然天文台の方角から低空でグラマンの編隊が陣地を目指して突入してくる。高度をみるみる下げてくる。どでかい爆音と共に機関銃・機関砲を撃ち込んできた。信管零秒で撃ち放す我が方の弾丸炸裂音、敵機の爆音、発射音、地上には敵弾で立ち上がる土埃、砲弾の空箱を放り出す音、弾薬庫から運び揚げる者の声。煙　煙　煙、音　音　音、埃　埃　埃、平和な田園風景はたちまち阿修羅の巷と化していた。

森 宣明氏記す

発行　2015年8月15日
社会福祉法人 楽山会
〒181-0015東京都三鷹市大沢4－8－8
Tel 0422-33-2255　Fax 0422-33-2220
制作　株式会社 文伸　Tel 0422-60-2211
協力　北作健二氏（元第1903部隊調布隊中隊長）

VEGETABLE OIL INK

R80 古紙パルプ配合率80%再生紙を使用



首都防衛高射砲陣地跡の碑
「東部第1903部隊調布隊」戦友会（1975年～2005年）は、1977年10月16日の初代祈念碑の建立後から、毎年2月17日と8月15日に慰霊祭を行ってきました。慰霊祭は戦友会の遺族に引き継がれ、椎の実子供の家の園児も参加して現在も続けられています。

高射砲陣地跡地に、調布隊の戦友会が平和を祈念する碑を建立しました。

【記念碑碑文】戦火の本土に近づくに及び　首都防衛のため　昭和十八年九月　此の地に東部第一九〇三部隊　調布隊は　仲午六隊長以下一八六名を以て陣地を構築し　高射砲六門観測機材等を設置して布陣した　数次にわたる米軍との交戦により　戦死四名負傷者多数を数えた　其の後戦況の推移により　日本海側に残された唯一の食糧補給港である富山県伏木港防衛のため　昭和二十年四月末　北作健二隊長以下転進する迄此の地で任務を遂行した　戦後鈴木平三郎氏が陣地跡を現状のまま保存しており　且つ此の地を福祉法人に寄付し永久に保存して下さるので　此の度戦友一同相計り此の碑を建立し　永遠の平和を希求すると共に英霊四君の冥福を祈り続ける事にした

昭和五十六年二月吉日建立　調布隊戦友一同



2005年（平成17年）8月15日
調布隊戦友会最後の写真



元第1903部隊調布隊中隊長
北作健二氏

三鷹市大沢に高射砲陣地がありました

調布飛行場と東京を守る

先の太平洋戦争のとき、三鷹市大沢の高台に、調布飛行場をはじめ首都東京を守るための高射砲陣地がありました。高射砲は、飛行機を射撃するための7㎝から15㎝くらいの口径砲です。大沢の陣地では、陸軍東部第一九〇三部隊調布隊によって7.5㎝の高射砲6門が設置され、敵機に備えました。

1945年2月17日戦闘があり隊員4人死亡

1944年11月以降、マリアナ諸島のサイパン島等からB-29戦略爆撃機による本土空襲を行ってきた米軍は、「1945年2月19日実行予定の硫黄島上陸作戦の援護と本土航空戦力の減衰」を目的として、2月16日、空母艦載機としては初めての本土空襲を行いました。この日、米海軍の大艦隊は、銚子沖南方200㎞くらいまで接近し、早朝より、空母から戦闘機や小型爆撃機を大挙出撃させ、中島飛行機武蔵製作所や調布飛行場など、関東地方の軍事関係施設を爆撃しました。これに対し、防空飛行部隊や高射砲部隊は一日中激しく応戦しました。翌17日も出撃があり、グラマンF6F戦闘機の編隊が中島飛行機を襲撃した後、大沢の高射砲陣地にも銃撃してきました。壮烈な戦闘があり、4人の隊員が亡くなりました。（巻末の当時の証言をご参照）

平和を希求し高射砲台座を残した鈴木平三郎

高射砲の台座を戦争記念に永久に保存

鈴木平三郎が三鷹市長であった1957年（昭和32年）大沢の農地委員が訪ねてきて、高射砲陣地跡地を誰か買って保存してくれないだろうかと申し出がありました。結局買い手が見つからず、鈴木平三郎が買い取り、高射砲の台座を戦争記念に保存することにしました。その後、この陣地跡地を永久に保存できるように、社会福祉法人楽山会を設立し、そこに土地を寄付をしました。（現在も妻の鈴木スミ理事長が高射砲台座を守り続けています。）鈴木の勧めで、1977年（昭和52年）戦友会が、陣地があったことを記念する碑を建立しました。

戦争の恐ろしさを知っている者がやらねば

鈴木平三郎はこの碑の建立にあたって次のような文を残しています。「私も中国の第一線で六年間生命を賭して戦って二回負傷したが、生きて還れた。平和運動は、農家の人が言ったように、戦争の恐ろしさを知っている者がやらねば実を結ばないと思う。平和を守り抜くことは、戦場で闘う勇者より、更に一層の勇気と決意が必要である。永久の平和を希求するため、私どもが皆さんに代わって永久に守り続ける決意である。」



鈴木スミ
社会福祉法人楽山会
理事長



鈴木平三郎
（1906年～1984年）
元三鷹市長、医師